

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和4年度10月号

○ 概要

- (1) 令和4年度10月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,454億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲0.1%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,250円（伸び率▲2.2%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,779億円（伸び率+4.9%）薬剤料が4,662億円（伸び率▲1.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が927億円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,297円（伸び率▲4.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率+1.2%）、27.5日（伸び率▲0.6%）、69円（伸び率▲5.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,696億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲99億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の680億円（伸び幅▲7億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+37億円（総額475億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,696億円 (▲99億円)	39 その他の代謝性 医薬品(680億円)	21 循環器官用薬 (584億円)	11 中枢神経系用薬 (545億円)
0歳以上 5歳未満	21.2億円 (+0.8億円)	44 アレルギー用薬 (7.6億円)	22 呼吸器官用薬 (4.5億円)	61 抗生物質製剤 (2.7億円)
5歳以上 15歳未満	87.6億円 (+5.0億円)	44 アレルギー用薬 (31.9億円)	11 中枢神経系用薬 (26.3億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.7億円)
15歳以上 65歳未満	1,364億円 (+4億円)	11 中枢神経系用薬 (274億円)	39 その他の代謝性 医薬品(260億円)	21 循環器官用薬 (184億円)
65歳以上 75歳未満	845億円 (▲65億円)	39 その他の代謝性 医薬品(186億円)	21 循環器官用薬 (151億円)	42 腫瘍用薬 (145億円)
75歳以上	1,379億円 (▲43億円)	21 循環器官用薬 (246億円)	39 その他の代謝性 医薬品(226億円)	42 腫瘍用薬 (174億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,250円（伸び率▲2.2%）で、最も高かったのは高知県（10,978円（伸び率▲7.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,812円（伸び率▲1.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは鹿児島県（伸び率+0.1%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲7.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	83.2 %	+1.5 %
薬剤料ベース	19.9 %	▲0.2 %
後発品調剤率	79.5 %	+1.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.0 %	+0.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.8 %	+9.0 % (0歳以上 5歳未満)	▲7.9 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	29.3 % (0歳以上 5歳未満)	11.9 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	83.2 %	87.6 % (100歳以上)	78.1 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	787 億円 (▲26 億円)	21 循環器官用薬 (239 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (80 億円)
0歳以上 5歳未満	8.4 億円 (+1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (4.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	16.9 億円 (+0.8 億円)	44 アレルギー用薬 (9.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	271 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (62 億円)	44 アレルギー用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	178 億円 (▲16 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)
75歳以上	312 億円 (▲10 億円)	21 循環器官用薬 (101 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (39 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,328 円	1,696 円(北海道)	1,119 円(佐賀県)
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.8%	▲2.7 % (鹿児島県)	▲6.7 % (岡山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	83.2 %	89.9 % (沖縄県)	79.4 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	23.5 % (鹿児島県)	17.1 % (京都府)
後発医薬品調剤率	79.5 %	84.8 % (沖縄県)	74.9 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.0 %	66.9 % (沖縄県)	55.2 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。